

百道浜小学校・自然体験活動「校庭の樹木ウォッチング」

2月15日。7:40と早い時間からスタッフ14名が集合し、校庭の樹木に名札をつけたり、ルーペや木の実のセッティングなどの準備をしてスタンバイ。5年生102名（3クラス）が集まって、約2時間、校庭の樹木ウォッチングを楽しみました。

始まりは「木木クイズ」で、子供たちに樹木という巨大な生き物に思いを馳せてもらいました。日本一大きなクスの樹の幹回りと同じ長さのロープの輪に、全員がすっぽり包まれた時には、皆が驚きの声をあげていました。

12グループに分れて、それぞれのインストラクターは校庭の樹木を巡りながら、植物の世界を案内しました。イチヨウ、クロガネモチ、ツバキ、シイ、ソメイヨシノ、ネズミモチ…毎日、過ごしている校庭の樹木を一本一本、よく見たことがあったでしょうか？ひとつひとつには名前がついていて、それぞれ違った姿をしており、花や実をつけ生きているということに気がついていただいでしょうか？植物たちは鳥や虫や動物や風や雨、いろんな自然の力に助けられて、子孫を残し、また他の生き物にも命を与えて、お互いになくってはならない存在であることを知って、小さな驚きを隠せないようでした。ウバメガシの側には、備長炭、ソメイヨシノには桜染めのポーチなども置いて、樹木が色んな形で人間の生活に役立っていることも、子供たちに伝わりました。ネズミモチの実は不老長寿の薬となり「いい薬は苦いんだよ」とのインストラクターの言葉に、「食べてみたい」と思った子もいたようです。残念ながら、今回、味覚体験はありませんでしたが、視覚、嗅覚、触覚、聴覚を使って、自然を感じる事が出来たようです。

その後、体育館に移動して、大型スクリーンによる「森林に関する講話」で、木や森や自然が、自分たちにとってどれだけ大切なものかを学ぶ。ふりかえりでは「木や緑に関心が深まった」と、ほぼ全員の手が拳がり私たちが伝えたかった思いを、子どもたちはしっかりと受けとめてくれたようでよかったです。

私は、自分のインストラクションの目的の一つとして、「自然がなくなったら、人間も生きていけないことを知ってもらいたい。大きな自然のつながりの中で私たちは生きているんだよ。もし、お金がなくなっても、スーパーで何も買うものがなくなっても、自然がありそれを活用できる知恵があれば、生きていけるんだよ。そのためにも日頃から自然のことを知っておくのは大切。そして大人になった時、いつの間にか木が切られていた、知らないうちに山が削られていた、なんてことにならないような社会を作っていける人になってほしいと思います」という言葉を伝え、子供たちにしっかりと受け取ってもらえたと思います。スタッフ；鶴田、諸石、千種、轟、溝口、戸町、薛、常藤、廣、大熊、手寫、久保田、田川、出口（記；出口容子）

